

7 家庭でできるフィルタリングとペアレンタルコントロールの活用法

子どもがインターネットを使う機会が増える中で、保護者が不安に感じるのが「有害な情報に触れてしまうのでは？」という点です。そこで役立つのが、フィルタリングとペアレンタルコントロールの機能です。これらは、子どもが安全にネットを使うための“デジタルな見守り”のツールと言えます。

まず、フィルタリングとは、子どもに不適切なサイトやコンテンツへのアクセスを制限する機能です。スマホやタブレット、パソコンなど、ほとんどの端末に設定が可能で、年齢に応じた制限レベルを選ぶことができます。たとえば、暴力的な動画やアダルトコンテンツ、詐欺サイトなどを自動でブロックしてくれるため、安心感があります。

一方、ペアレンタルコントロールは、利用時間の制限やアプリの使用管理、位置情報の確認など、より細かく子どもの端末利用をコントロールできる機能です。たとえば「夜9時以降はスマホを使えないようにする」「SNSアプリは使えないようにする」といった設定が可能です。これにより、生活リズムの乱れや依存の予防にもつながります。

ただし、これらの機能は“万能”ではありません。技術的な制限だけでなく、子どもとの信頼関係や日常の会話があってこそ、真の安全が守られます。「なぜこの設定が必要なのか」「困ったときはどうすればいいか」を家庭で話し合いながら導入することが大切です。

フィルタリングやペアレンタルコントロールは、子どもを守る“壁”ではなく、“橋”です。安心してネットを使える環境を整えながら、家庭で情報モラルを育てていきましょう。

8 子どもに伝えたい「本当の情報」と「フェイクニュース」の見分け方

インターネットやSNSが情報の主な入り口となった今、子どもたちは日々膨大な情報に触れています。しかし、その中には事実とは異なる「フェイクニュース」や誤情報も多く含まれており、知らずに信じてしまうことで誤った判断や偏った価値観につながる危険性があります。保護者として、子どもに「情報を見極める力」を育てることが重要です。

まず伝えたいのは、「ネットの情報はすべてが正しいわけではない」という前提です。見た目が立派な記事でも、出所が不明だったり、意図的に誤解を招くような表現が使われていたりすることがあります。特に、感情を強く揺さぶるようなタイトルや画像には注意が必要です。「本当かな？」と一度立ち止まる習慣をつけることが、フェイクニュースへの第一の防御になります。

次に、情報の出典を確認する力を育てましょう。信頼できるメディアか、専門家の意見か、複数の情報源で同じ内容が報じられているかなど、情報の裏付けを取ることが大切です。子どもと一緒にニュースを見ながら、「これはどこが発信しているの？」「他のサイトでも同じことを発信している？」と問いかけることで、自然とリテラシーが身につきます。

また、子どもが情報を発信する側になることもあります。SNSでの投稿やシェアは、他人に影響を与える行為です。「自分が広める情報は正しいか」「誰かを傷つけていないか」を考える力も、情報モラルの一部です。

情報を鵜呑みにせず、疑問を持ち、確認する力は、これからの時代を生きる子どもにとって欠かせないスキルです。家庭での会話を通じて、子どもと一緒に「情報との付き合い方」を育てていきましょう。